

2009 年度釜山大学校サマープログラム報告書～PNU SUMMER PROGRAM 2009

北海道教育大学札幌校 基礎学習開発専攻英語グループ 北橋亜衣

2009 年 8 月 10 日から 28 日までの 3 週間、私は韓国・釜山にある釜山大学のサマープログラムに参加しました。釜山は、韓国の首都ソウルに次ぐ第二の都市であり、日本にほど近い朝鮮半島の南部に位置します。釜山大学は釜山近郊に 3 つのキャンパスを持つとても大きな大学で、プログラムの参加者は大学敷地内にある寮に滞在しました。プログラムは平日のみで、韓国語の授業や韓国文化に関する授業を受けたり、釜山大学のキャンパスツアーや釜山市内の観光地を巡るフィールドトリップに出向いたりなどして過ごしました。プログラム参加者 1 人から 3 人に対して、釜山大学生のチューターがついて滞在中の様々なサポートをしてくれました。

(1)韓国語の授業

韓国語の授業は平日の午前、途中の小休憩を含め 3 時間程度行われました。初級クラスと中級クラスの 2 クラス構成で、クラス分けはプログラム参加者の自己申告によるものでした。初級クラスではハングルをある程度読み書きできる人やまったく韓国語学習は初めてという人、中級クラスでは韓国語初級レベルを終えた人から流暢に会話ができる人までなど、クラス内でも韓国語のレベルにばらつきがあり、参加者からは「もう少しクラス分けを細かくしてほしい」といった要望も聞かれました。確かに私は初級のクラスを受講していましたが、高校で 2 年ほど韓国語を学習していたこともあり授業は少し簡単と感じました。しかし、授業は韓国人の先生によりほとんど韓国語で行われたため、初級クラスといえど受講者のほとんどが韓国語で簡単なコミュニケーションをとれる程度まで上達していました。授業では毎回プリントが配られていましたが、プログラム終了時にはそれぞれのレベルに応じたテキストが 1 冊ずつ配布され、帰国後も継続して韓国語学習ができるようになっています。

(2)韓国文化に関する授業

韓国文化に関する授業は、教室での座学から実際に文化体験をするものまで様々でした。教室で行われた授業は、韓国の歴史や伝統、文学、映画など興味深い内容のものばかりでした。映画の授業では実際に韓国映画を見たり、韓国の伝統に関する授業ではチマチョゴリという韓国伝統的な服を着たりなど、教室内でもいくつかの文化体験をすることができました。授業はほとんど英語で行われたのですが、日本人学生と韓国人の先生の間で何度かディスカッションをする場面もあり、刺激を受けました。韓国を訪れる前に韓国の歴史



サムルノリ

や文化、映画やドラマなど、何でもいいのである程度調べておくと、授業をもっと楽しく聞くことができると思います。実際に文化体験をする授業は、韓国伝統料理作り、テコンドー、陶器作り、サムルノリという韓国の太鼓の演奏、韓紙の入れ物作り、韓国の踊り、ハングルのポップライティングなどがありました。これらの授業を通して、韓国の伝統的な文化から現代文化まで、幅広く知識を得ることができました。また、

授業中に韓国のお茶やお菓子を頂いたり、文化体験で作った作品を持ち帰ったりと、うれしい特典もあります。

(3)フィールドトリップ

毎週金曜日はフィールドトリップとして釜山市内の観光地を訪れました。なかでも海雲台という韓国一のビーチは夏ということもあり圧巻でした。その他にも釜山タワーや釜山水族館などを訪れ、釜山観光も十分楽しめました。移動は全て釜山大学のバスでしたが、バス内では日本語や韓国語を教えあったり K-POP を聞いたり学生同士のコミュニケーションも多く、良い学習の場になっていました。フィールドワーク中の昼食は訪れた観光地での外食だったので、普段食べることのできない韓国料理のコースなどに舌鼓を打ちました。



海雲台ビーチ

(4)週末について

プログラムは平日のみなので、週末の過ごし方は各自自由でした。そのため、泊りがけでソウルや済州島に行く人もいました。私は一週目に慶州に行って世界遺産を見たり、チムジルバンという韓国式サウナに行ったりし、二週目には一人で地下鉄沿線をうろうろしてお土産を買い込んだりしました。韓国の地下鉄には日本語のアナウンスもあるので、一度乗り方を覚えてしまえば一人で移動することも十分に可能です。大きなデパートには日本人向けの通訳スタッフがいたり、商店街にあるお店にも日本語ができる店員さんがいたりするので、ショッピングにもあまり困りませんでした。ただし、お金を多く払わせられたりお釣りをごまかされそうになった人もいたので注意が必要です。

(5)釜山での生活について

プログラム中は釜山大学の学生を含む参加者全員が寮に滞在しました。基本的に2人部屋で、ほとんどの参加者が同じ大学の学生同士で相部屋になっていました。入寮の際カードキーが配布されますが、部屋がオートロックなので取り扱いに注意が必要です。新しくできた寮ということもあり、部屋にはそれぞれエアコン、インターネット回線、シャワー、トイレがあり、大学寮としては申し分ない設備だったと思います。日本からパソコンを持ってきて部屋でつなぐこともできますが、寮内に24時間自由に使えるパソコン室があったので、私はそちらを利用していました。洗濯機と乾燥機はそれぞれ日本円にして50円以下で使うことができます。また、寮内にコンビニもあるので、そこで生活必需品やお菓子などを買ったりしました。寮の一階にテレビやソファがある大きめの部屋があり、参加者でそこに集まっているいろいろな話をしたり韓国のバラエティ番組を見たりして交友を深めました。食事は基本的に寮内にある食堂で3食を食べますが、途中で食堂が使えなくなったので大学からクーポン券が配布されました。このクーポンは大学周辺で使えるもので、おいしいレストランが多かったので毎回食事が楽しみでした。ただし、やはり韓国料理は辛いものが圧倒的に多いので、辛いものが苦手な人は早いうちに慣れておくとういかもしれません。釜山大学周辺は地下鉄の

駅も近くて多くのお店が立ち並んでいるので、とてみにぎやかでした。少し歩けば大きなスーパーマーケットもあり、海苔などのお土産はそこで買うと安いです。また、韓国のタクシーは日本に比べてかなり安いので、何人かで行動する場合はタクシーを利用すると便利です。釜山大学敷地内には坂道が多く、さらに参加者が滞在する寮は山の上のようなところにあるので、寮までタクシーを利用することも少なくありませんでした。私が釜山での生活で最も参ったのは暑さでした。北海道に比べると気温も湿度もずっと高いので、持って行く服もよく考えて選ぶとよいと思います。また、気候にかかわらず、海外に行って急に生活環境が変わることは想像以上に体に負担がかかります。実際に今回の参加者の中にもダウンしてしまった人が数名出てしまい参加者全員が外出禁止になったり授業が中止になってしまったりというハプニングもあったので、出発前から体調にも十分気をつけてください。

(6)最後に

私にとって今回は二度目の韓国でしたが、この釜山大学のサマープログラムはかけがえのない特別な経験となりました。プログラムの参加者は国籍も出身地も学部も全く異なりますが、3週間ともに生活をしていく中でお互いの言語や文化を吸収し合い、文字通り世界で一番アツい夏を過ごすことができました。現地で学んだ生きた韓国語を忘れないよう、これからも韓国語学習に励んでいきたいと思います。来年度以降プログラムへの参加を考えている方は、ハングルを読める程度の韓国語と日韓関係や歴史などについて少しでも知っておくと、より充実したプログラムになるとと思います。

最後になりましたが、このような貴重な経験ができたことを、プログラムに関わった全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。



チマチョゴリ



ハンゲルのポップライティング